

災害時にペットを守る為に

ペットの災害対策ガイド

犬・猫編



災害は突然起こります。ペットと安心して暮らせるように、
普段から心構えと備えをしましょう。



狛江市

住まいの防災対策の確認

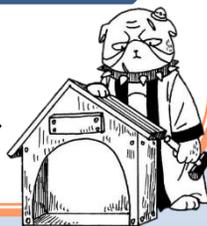
室内で飼っている場合

- ケージや周りの家具が地震で倒れないよう、固定する。
- 万が一、家具が倒れても、ケージがつぶれないような配置を考える。
- 割れやすいガラス等は、低い場所に置き、ガラス飛散防止フィルムを貼る。
- ※ ペットがパニックになった場合に備えて、ケージのそばに、ペットを包むことが出来る大き目の布を置いておくのも効果的です。



屋外で飼っている場合

- 飼育場所は、倒れやすい建物やブロック塀、ガラス窓等の近くは避ける。
- 首輪や鎖、ケージ、囲い等の強度を定期的に確認、補強しておく。



狛江市の被害想定

被害想定	
建物被害(全壊・消失倒壊)	506棟
建物被害(半壊)	1,287棟
避難人口	12,640人
避難生活人口	8,216人

出展:「首都直下地震等による東京の被害報告書(東京防災会議) 平成24年4月18日 公表

【多摩直下地震の想定】

規模: M7.3 震度: 6弱
時期・時刻: 冬の18時 風速: 8m/s

関係機関との支援体制

市では、東京都獣医師会多摩東支部、狛江市獣医師会と災害時の動物救護活動に関する協定を結ぶ等、関係団体などと協議を進め、災害に備えています。

ペットに対するの災害対策

災害発生前に出来ること

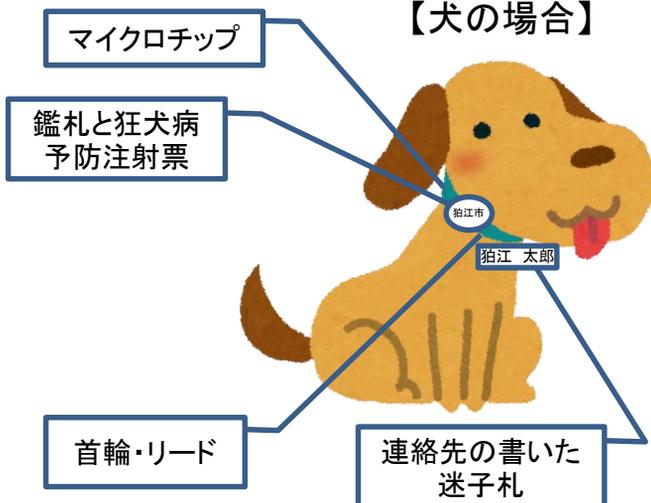
迷子札やマイクロチップを付けておきましょう

何が起こるか分からない災害時では、大切なペットと離れ離れになってしまうかもしれません。誰が見ても分かる迷子札や、半永久的に識別可能なマイクロチップを入れるといった2重の対策を行っておきましょう。

健康管理やしつけをしておきましょう

普段から、ペットの健康状態に注意し、外部寄生虫の駆除をしっかりと行いましょう。また、避難所で迷惑とならないように、むやみに吠えない、キャリーバッグに慣らしておく、他人に友好的に接するなどのしつけを行っておきましょう。

【犬の場合】



※犬の場合、鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は、飼い主に義務付けられています。

【ケージに慣らす方法】



- 普段から休めるスペースとして開放しておく
- 中でリラックスしているのを見つけたらほめる
- 寝そべることができ、広すぎず、狭すぎない大きさのゲージを用意する
- 中でおやつなどを与え、いい印象をもたせる

※ケージの中でも、おとなしく落ち着いていられるように普段から慣らしておきましょう。ケージで落ち着いて生活できるようになれば、避難所生活だけでなく、来客や車移動の際に役立ちます。

災害発生

身の安全を
図り、避難

災害時集合場所
(学校の校庭や
グラウンドなど)



一度自宅に
戻る

自宅で生活が

できる

できない

避難所で
生活

自宅で
生活



コラム

日常から
できる



避難の準備

避難の用意

ガラスの飛散や転倒している家具などに注意して、非常用持ち出し袋を用意し、電気ブレーカー、ガスの元栓を切ります。

ペットについては、以下のことを確認しましょう。

- リードを付け、首輪が緩んでいないかを確認する。
- 小型犬や猫は、キャリーバッグやケージに入れる。
- キャリーバックなどの扉が開かないようにガムテープなどで固定する。

災害時集合場所・避難所へ

災害時は、人も動物も興奮しているため、普段と違った行動をとることも考えられます。リードを離さないようにしっかり持ち、キャリーバッグやケージはしっかりと抱えて動物の安全に気を配りましょう。

倒壊した建物や切れた電線など、避難場所までの経路には危険な箇所がたくさんあります。足元や頭上に気を配り、落ち着いて行動しましょう。



避難所での生活

ペットの世話は全て飼い主の責任です

・ペットのケージや備蓄品の準備をしておきましょう

避難所でのペットの世話は全て飼い主の責任となります。また、ペットには様々な種類がいるため、市ではペット用の食料やトイレを備蓄していません。ペットのための防災用品やケージの準備、しつけを普段からしっかりとっておきましょう。



避難所のルールを守りましょう

・ペットを連れてくる場合、各避難所で定めたルールを厳守してください

一部の例外(盲導犬や介助犬など)を除き、全てのペットは人の生活スペースと分離します。迷子札や鑑札をつけると共に、必ずケージに入れましょう。また、狛江市では、12カ所の避難所に、市民の方が構成する避難所運営協議会があり、普段から避難所の運営方法等を話し合っています。話し合いや訓練に積極的に参加し、ペット同行避難のルール作りにご協力下さい。

★訓練日程などは「こまえ安心安全情報ブログ」で確認できます。

こまえ安心安全情報ブログ QRコード



助け合える環境づくりをしよう

避難所での生活はペットにとってもストレスとなります。災害が起こった際、遠方の知り合いや親戚等に預かってもらえるよう、普段から家族や周りの人と話し合っておきましょう。また、近隣の飼い主同士で交流し、いざというときに助け合えるようにしましょう。



ペットのための防災用品

□常備薬、薬

□ペットフードと水(5~7日分)



ペットフードは救援物資として、すぐには手に入らない場合も考えられるため、最低でも5日以上分の備蓄を用意しておきましょう。

※水や食べ物を入れるための容器・食器は、プラスチック容器やペットボトル等でも代用できます。

□キャリーバッグ、ケージ

がれきやガラスの破片などの危険からペットを保護するため、避難所などでの生活を行うために、必ずケージ等を用意しましょう。

※ケージ等を補強できるガムテープ等があると便利です。



□予備の首輪、リード(伸びないもの)

普段はおとなしいペットでも、災害後は、興奮して人を襲う可能性があります。

ペットが他の人に危害を加えないためにも、リードを用意しましょう。

□トイレ用品

ペットシートや新聞紙などを十分に用意しておきましょう。

□記録手帳(愛犬手帳など)

ワクチンの摂取状況やかかりつけの動物病院などの情報を記載しておくほか、万が一ペットとはぐれてしまった時のために、飼い主の連絡先や預かり先情報などをまとめておきましょう。

□おもちゃ(ペットが気に入っているもの)

興奮しているペットを落ち着かせるのに役に立ちます。

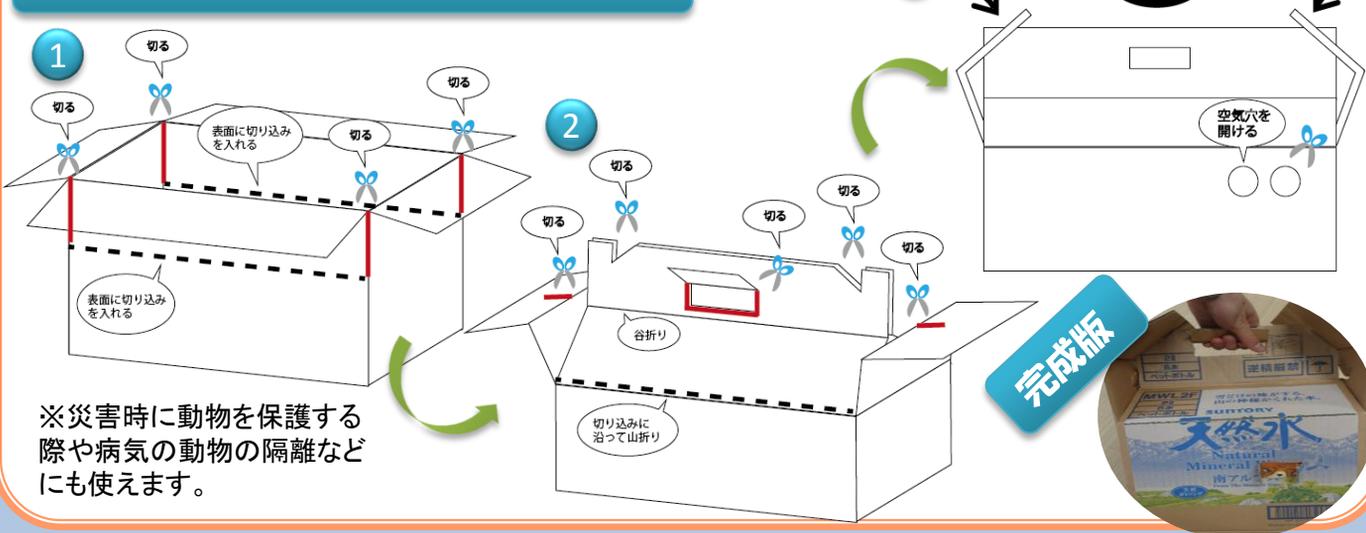
持ち出し分と備蓄用で袋を分けておくと便利だなあ

<簡単に作れる！>非常時の代用品

常に代用出来るものを探してみよう

ペット用品がしばらく入手できなくなる事態も想定して、身の回りの物で代用できる物がないか、探してみましょう。ダンボールや新聞紙はトイレや防寒対策など、様々な用途に使えます。

ダンボールで作る小動物用キャリーバック



※災害時に動物を保護する際や病気の動物の隔離などにも使えます。

狛江市防災マップアプリ

オフラインでも防災マップや情報が確認できます。



iPhone版 QRコード



android版 QRコード

問い合わせ先

災害対策・避難所について (狛江市役所・安心安全課)	03-3430-1190
犬・猫の飼い方・相談 (あいとぴあセンター・健康推進課)	03-3488-1181